

小根山森林公園・野鳥の森における H28 年度クマ対応について

小根山森林公園・野鳥の森

H28 年度の状況について

群馬県内ではツキノワグマの大量出没が認められ、小根山においても例外ではなかった。7月24日（日）、園内において犬の散歩中に、クマらしき動物が木の上で何かを食べている、との連絡が、お客様からあり、対策を行った。ここでは、その一連の流れを報告する。

クマの痕跡確認と連絡

7月25日（月）、天候は曇り。職員2名でクマの摂食痕跡を園内のウワミズザクラ15本において確認した。枝が無数に折られ、「クマ棚」となっていた。このため、群馬県、松井田支所観光課等、関係各所に連絡を行った。

クマの出没状況の確認

8月2日（火）より、赤外線センサーカメラをクマの出没が確認された2カ所に設置した。カメラの記録（静止画および動画）から、クマを含む多種多様な動物がウワミズザクラの実を食べにきている様子が確認された。クマの出没は早朝、夕方以降が多い傾向にあった。また、個体の状況から、園内に出没したクマは、3頭と推定された。

公園の対応処置

当園では、下記の対応を行った。

- ① クマの出没が確認されたエリアへの立ち入り禁止勧告
- ② クマ出没の看板の設置（5ヶ所）
- ③ 個人には、クマ鈴の貸出
- ④ 団体には、大きな（掌サイズの）鈴の貸出、及び、職員が先頭に立って、安全確認をしながら園内を案内

その後の状況

ウワミズザクラの実がなくなり、クマの出没が認められなくなったことから、10月1日（土）にセンサーカメラを回収した。現場の状況、データ等の確認から、ウワミズザクラの実が主な誘因原因であったことから、実がある時期に適切な対処を行い、注意喚起をした結果、事故等の発生を防ぐことができたと考えられる。

園内に出没したクマの写真

